

6 番

改めておはようございます。通告1番、6番議員、瀬戸和雄です。通告に従いまして、「町政5期目を目指す考えは」と題しまして質問を行います。

3月に行われました第1回定例会一般質問での任期満了に伴う町長の考えはという質問に対し、町長は、現時点においては、町民の皆様と今後の大井町のために自分の持てる力を十分発揮し、それらの課題に対し、誠実に取り組んでまいりたいとの答弁がございました。本年12月に迎える任期満了に対する意思表示は、そのときにはなされませんでした。また、4月の26日行われました間宮町長の講演会、役員総会の場においても、期待された出馬表明はなかったと聞いております。

余すところ6カ月となった今、改めて、以下の質問をいたします。

1つ、5期目を目指す考えはあるか。町長の真意をお聞かせください。

2つ目に、平成25年に提出された行政改革検討会による今後の行政改革に関する提言、また、相和地域活性化委員会からの相和地域活性化に関する意見書に記載された事項については、どのように進めていくのか、今までの経緯と、今後の取り組みについて伺います。

以上、2点を第1回目の質問といたします。よろしく御答弁のほどお願いをいたします。

議
町

長 町長。

長 改めまして、皆さんおはようございます。通告1番、瀬戸和雄議員の御質問でございますが、大変、議会の皆さんはじめ町民の皆さん、あわせて町外の方々にも大変私の進退について関心と、あわせて御心配をいただいているところでございます。3月定例会には、あのような答弁をさせていただいたわけでございますが、昨年の暮れ、また今年にかけまして、町内、町外を問わず、多くの方々から今後の進退をどうするかというような御質問といたしますか、そんなことが投げかけられておったわけでございます。そのような中で、私も、今から20年前を振り返りますと、自分がそのときに町制に移行した経緯というものは、自分自身がよく知るところであります。大変多くの皆さん方も、その辺のところを御心配していただいておりますというようなことでございます。

そのような中、町内の方々におかれまして、今あるところの町内のいわゆる社会資本の整備、この役場北側の区画整理や、また、都市計画道路和田河原線に関しての強い要望等もあるし、そんな期待も私にされているところでございますし、また教育や福祉、日々新たな課題が創出される中、そんなことへも期待をされておるといようなことでございます。そんな中で、町内の中もそうでございますが、特に町外からにおかれまして

は、やはりごみの処理の広域化を初めとする広域行政をさらに責任を持って進めると、そんな声もあります。町内におきましてはいろんな課題があるわけですが、特に相和地域の活性化について、ここで投げ出すことなくやってほしいと、そんなお声もあるわけですが。さきの私の後援会の役員総会におきまして、有権者の三千八百余名の署名をもって出馬してほしいと、そんな依頼もあったわけですが。また、後援会の皆さん方には、出馬に向けて日々活動をいただいているというようなことでございます。

そのような中で、私も一番のどんな役を、仕事しましても、いわゆる進退といいますか、やめるときが一番難しい。多くの私の先輩方から伺っても、やめるときが、出るときよりやめるときが一番難しい。私も事業もした経験もあるわけですが、やる時は勢いに乗ってできるわけですが、やはり事業を整理をするとか、ことを最後にまとめ上げるときが一番難しいわけですが、この進退については大変悩んでおったところでございます。そんな中で、やはり責任を持って、投げ出すことなくやれというような大変御意見が強いというようなことで、私もきょうまで15年強にわたって町政を預からせていただき、投げ出すことなく、責任を持って町政をやっていくということが私に課せられた今の責任ではなかろうかと、そういう点においては、5期目に挑戦をさせていただくといいますか、皆さん方の御理解と御協力を得た中でやっていき、将来の大井町のさらなる発展に努めてまいりたいと考えてところでございます。

あわせて、2点目のお答えもあわせてさせていただこうと思います。重複する点が多々あろうかと思いますが、その辺のところは御了解をいただきたい。そんなことをお願いするところでございます。

町の行政を進めるに当たりまして、おおいきらめきプランに位置づけてある成長戦略を初め同計画中のハード・ソフト両面の事業は現在進行中であり、取り組む事業の中には、長期、また中期的な課題もあるわけですが。誠実かつ着実に全力で取り組んでいかなければならない、そんな強い志を持っておるところでございます。

特に一層の地域振興を推進するための道路網の整備、大井町が基礎的自治体として役割を果たしていく上で、市町村間の広域連携がとても重要であるというような認識を持っておるところでございます。これはぜひとも振興させなければならない、この地域の課題であると思いますし、これがやはり五十有余年にわたって、我々はそのようなことに取り組んでまいったわけですが。そういう点から、1市5町広域行政協議会

なるものも現存しておるわけでございます。そのような中で、さらなる連携を深めていく必要があろうというようなことでございます。

また後段で、相和地域の活性化に関する意見書に記された事項の進め方についても御質問があろうかと思いますが、その点は重複するところでございます。

まずは、私は、相和地域の活性化においてなくてはならないことが、相和地域の道路網の整備ではなかろうかなというように考えるところでございます。相和地域を中心に秩序ある柔軟な土地利用を図られるよう、いろんな団体、これは市町村も含めてでございますが、また、県等の関係機関へ働きかけ、これらの整備をしていく必要があろうかというようなことでございます。

特に国道246号バイパス完成時には、現在、県において整備中のいわゆる篠窪バイパス、県道708号でございます。通称秦野大井線でございますが、これへの交通量の増加が見込まれるわけでございます。これらの車両は、上山田を結節点といたしまして、町道4号線で、下山田方面、また県道から神山、また中井方面へ通行するものが見込まれるわけでございますが、特に、この車両の多くが小田原方面に行くには町道4号線に入ってくるというようなことで、大変この道が混雑をしているというようなことでございます。また、この道路は上大井の赤坂を通行しなければならない。そして、県道松田・国府津線へ接続するわけでございますが、これをやはりきちっと整備していくというようなことが必要じゃなかろうかなと考えておるところでございます。

特に相和地域の活性化において、関連する企業に問い合わせても、工事用車両さえ、地域の皆さん方と協議した中で、1日通行何台だというようなことで、我々、事業者としては事業ができないというような状況でございます。今、下山田で、圃場整備をしておる車両においても、地域との協議の中で通過をしておるというようなことでございます。また、このような道路が整備をされ、通行車両がふえることによって、コンビニエンスストアとか、ガソリンスタンドだとか、沿道サービス系の土地利用も図られるわけでございまして、地域の活性化のためには、これが必要になるというような認識でございます。当然、下山田から赤田、篠窪から柳間の集落間道路の整備もしなければならないわけでございますが、まずは幹線道路があり、そして町道なり生活道なりというようなものに来ることじゃなかろうかというように考えるところでございます。

また、今後進むところの少子高齢化社会等の社会構造の変化が今話題になっておるわけでございます。そのような面におきましても、産業にお

いて、商業振興、農業振興、これらも道路によって解決できる点もあろうかと思います。また、財政面では、歳入の根幹をなす町税の大きな増加は期待を簡単にできないわけでございます。また、国、県の地方に対する支援策も先行きが不透明でございますし、増嵩するところの社会福祉費などへの歳出もふえていくというようなことで、経費削減ばかりでは財政を担う上で課題が大きいわけであります。このような状況下で、小規模自治体の運営でございますが、行財政の改革だけでは、これを切り開く道はございません。

そのような中で、市や町が共同処理で事務等をしていくというようなことも大変これからは重要になってくることじゃなかろうかなと考えるところでございます。基礎的自治体の行政サービスの提供体制に関するところの地方制度調査会から内閣総理大臣への答申におきましても、今後、町政推進に当たっては、広域連携を視野においた取り組みが大変重要であるというような考えを我々近隣はみんな共通課題として持つておるところでございます。県下の町村のシステム運営の共同化だとか、また消防の広域化など進めた経験などを持ちながら、道路、交通問題を初め、また大井町に住む方々のことを主眼においた広域連携が図られるようにしていくことが我々の責務じゃなかろうかなということが1市5町の首長の間でも持たれておるところでございます。

また、子どもを産み育てる環境の一層の向上など、次代につなぐ活力みなぎる未来づくり、また、産業立地と居住環境の創出のための金子吉原地区土地区画整理事業、また、小中学校の教育環境の向上など、事業途上の課題に対しても取り組んでいく必要があるというような考えでございます。

そんな中、特に2点目になろうかと思いますが、25年に提出された行政改革検討委員会によるところの今後の行政改革に関する提言、また相和地域活性化委員会からの相和地区活性化に関する意見書に記された事項について、どのように進めていくかとの御質問でございますが、まずは、集中改革プランや大井町行財政改革推進会議における検討結果に基づき、コスト削減や効率性の向上に取り組んでまいらなければならないというようなことでございます。しかしながら、近年の景気低迷等により、町の財政は年々厳しさを増す状況にあるわけでございます。

そこで、これまでの行財政改革の取り組みを再点検をするとともに、これからの行政改革の費用的な方向性について、一步踏み込んだ検討をするため、5名の外部委員の方に4回にわたって検討していただき、今後の行政改革に関する提言として、25年3月に提言をちょうだいしたもので

ございます。

提言書は、近年長期化する経済情勢の低迷や町内企業の動向に端を発する町税収入の減少と同時に、今後、人口減少や少子高齢化の進展による社会福祉費等の増大による町の財政状況は大変厳しい傾向にあるわけでございます。そのような中、事業費の節減といった財政手法には限りがございます。まして、厳しい局面を迎える状況の中、これらの状況に対応していくために財政支出の大きい事業を中心に、町が中・長期的視点に立った公共施設、公共サービスのあり方を基本的視点として、多角的な観点から検討していただいたものでございます。

子育て関係では、幼保一元化の検討、幼稚園における延長保育の実施及び保育園の充実では、幼稚園の児童数が減少する一方で、保育園のニーズが増大してきており、より魅力的な保育園へと充実を図るとともに、施設の将来的な老朽化といった状況への対応や、保育園の直営、公設・民営等の運営形態が適しているのかどうか、保育の質や安全・安心の確保を前提として、コストを比較しながら検討するというようなことでございます。

また、少子化が進む中で、教育施設の空き教室の有効活用についても、世代間交流の場としての活用等の検討、児童コミュニティクラブの運営につきましても、サービスの向上が期待できるNPOや保育園事業者等への運営委託などがございます。

また、学校教育関係では、児童減少に対応するための小学校の適正配置や供給能力の余剰が生じる学校給食センターの活用方法など、また、高齢者施策では、高齢者の健康増進として、事業の提案や受診率の向上による予防医学の充実の必要性など、また人口流出抑制では、企業誘致の促進として積極的な活動及び地域の雇用促進に努め、既存の町内企業に対しても、子育て環境の改善や雇用の創出等、環境づくり方策の検討等が出たわけでございます。

施設運営では、生涯学習センター、総合体育館及び山田総合グラウンドの運営では、設置目的や利用拡大を図るための策及び運営形態として、民間活力を生かした指定管理者制度の導入などが意見として出されたわけでございます。

また、ふれあい館の運営では、夜間貸し出しについて検討する。また、四季の里の運営については、趣旨に照らし、直売所だけでなく、農業体験の充実等に観光の拠点としての複合的な環境を図ることや、集客等のノウハウを有する民間事業者を活用した指定管理者制度の導入など、ロケーションの効果を発揮するために周辺農地における農業体験のさらなる推進など、そんなことが出されたわけでございます。

また、税収の確保では、行政運営の根幹を揺るがす滞納の回収に向けた取り組み、また、受益者負担金等の見直しでは、全ての行政サービスにかかわる負担金で、提供するサービスに要する総合的な経費と負担のあり方についての基準を定め、適正に運用を図ることと、以上16項目にわたる内容であったわけでございます。これらにつきましては、真摯に受けとめ、そして利用者、また町民サービスの低下につながることなく、効果的な運営を図っていくというようなことを確認したところでございます。

町では、この提言をいただきまして、庁内幹部会議、また所管課で、より今詳細な検討を重ねておるわけでございます。そんなことをしながら、効率的な行政運営を図ってまいりたい。また、相和活性化委員会から出されましたことは、既に意見については、皆さん方に全協等で御報告させていただいたわけでございますが、相和地域に関しましては、人口減少や少子高齢化、地域の基幹産業である農業の衰退等が懸念されることから、当該地域の活性化を大井町第5次総合計画の成長戦略の一つとしてうたっておるわけでございます。

そのような中で、昨年度、地域住民や地域の農業団体者、有識者等9名からなる相和地域活性化委員会を組織いたし、相和地域活性化に対する課題点及び改善策について、4回にわたり集中的に検討いただいたものでございます。その結果、まとめたものを先般お出ししたわけでございますが、本年2月に全協等で示させていただいたわけでございます。都市計画法等の規制の対策、農業対策、観光対策、過疎化対策、交通対策、その他の6つに分類して整備したものでございます。比較的短期間に行ったわけでございますが、これらにつきましては実現が困難なものもあろうかと思えます。短期に実現可能なものは早期に事業に着手し、改善を図ってまいりたいというように考えるところでございます。ゆめの里や四季の里の施設の充実、農業体験や直売所、ゆめの里のPRのためのホームページの開設等、これらは既に展開しようとするところでございます。

先ほども申し上げましたように、相和地域の活性化の原点になるのは、道路行政といいますか、根幹を成す主要地方道になろうかと思えます。そのために、先般の秦野市、松田町、中井町、大井町、1市3町で構成するところの広域行政協議会におきまして、篠窪バイパスから延伸するところの町道4号線を県道に昇格するような、そんな働きかけを1市3町の中でやり、また、これを小田原市にも御理解いただき、小田原市のほうへ連携をさせていく、こんな事業に取り組んでいくというようなことも必要じゃなかろうかというような認識を持っているところでございます。

まともりのない答弁をさせていただいたわけでございますが、何はと

もあれ、大井町におけるところの大きな課題でございます区画整理、和田河原線、そして相和地域の活性化、あわせて1市5町含め、さらなる広域行政の発展のために最後になろうかと思いますが、5期目は、そんな考えの中でやらせていただきたいと考えてございますので、今後とも御理解と御協力を切にお願いいたしまして、以上、答弁とさせていただきます。

6 番 それでは質問をさせていただきます。

ただいま町長から、「5期目を目指す」ということで、はっきりとした意思を伺いました。一部には、多選による弊害を懸念する声もありますが、この4期の間、一度も対抗馬が出なかった。これが結果的に多選といわれるものにつながり、その責任は、私を含めた有権者でもある町民にもあるのではないかというふうに私は考えております。今回の出馬表明により、既に立候補表明をいたしております同僚議員や、これから出馬を志す候補者に対しましては、施策やまちづくりをめぐり展開される選挙戦で、真の町民の審判に期待をしております。この1項目目の質問はこれで終わりにいたします。

それでは、相和活性化の問題について再質問をいたします。

地域の活性化には、人が集うということが一番だと考えております。そこで、相和地域活性化委員会から、先ほど町長からもお話がありましたが、相和地域の活性化に関する意見書の中の今後の取り組みに関する意見のその他に、公共、民間の既存施設や今後整備される施設について有効活用を図り、相乗効果による来訪者増の対策を講じる必要があるということにしております。今後整備される施設にパークゴルフ場を位置づけ、実現することを提案しますが、町長の見解をお尋ねします。

町 長 パークゴルフ場の件につきましては、大井町だけがパークゴルフ場のない町だと言われてしまうわけでございますけど、これにつきましては、ぜひつくりたいというような私は希望を持って取り組んでおるところでございます。しかしながら、ロケーションだとか、また、そういう施設をつくるには道路の問題やいろいろあろうかと思えます。そんなことで、候補地を探して今までもおったんですが、いい候補地がないというようなことでございますし、また、農地だとか林地はいろんな開発の規制等もあるわけございまして、これがクリアできるような用地が見つかったら、ぜひやりたいというような考えを持っておくことは私自身の一つの施策といたしますか、考え方の一つでございます。御理解いただきたいと思いますし、今後とも、公平・公正、無心に取り組んでまいりたいと思います。

6 番 時間もありませんので、手短にいきますけども、土地の厳しい利用制限は十分承知をしております。神奈川県は、県西地域活性化プロジェクトを

つくりまして、県西地域を「未病を治す」の戦略的エリアに位置づけ、「未病を治す」を実践していきたいということになっております。相和地域のすばらしい景観の中にパークゴルフ場、まさに本町は未病の戦略的エリアとしての名乗りを上げ、県への働きかけをしたらどうかと思いますが、町長の見解をお伺いします。

町 長 知事は「未病を治す」というようなことを言っておられまして、そういう施設をこちらに充実しているというようなことで、パークゴルフ場もそんな視野に入れておりますので、また、それらも入れた中で、県に理解を求めてまいりたいと考えます。